

SJ

The Safety Japan
since 1971

Close Up

クローズアップ 安全技術

安全運転支援システムの効果と限界を
正しく理解してもらうための研修

政府が安全運転サポート車（セーフティ・サポートカー、略称：サポカー）の普及を図る中、衝突軽減ブレーキ（自動ブレーキ）搭載車の販売比率は 2014 年以降、急速に増えている。Honda も昨年 9 月に発売した N-BOX 以降、軽自動車を含めた新型モデルで「Honda SENSING」（左下参照）と総称する先進安全運転支援システムを標準装備化している。そして、ドライバーが先進安全運転支援システムに対して誤解や過信をしないように、機能の効果や限界を正しく理解してもらうための啓発にも力を入れている。

警視庁交通部交通総務課
交通安全教育係 保谷健一さん警察署の安全教育担当者が
体験を通じて理解を深める

3 月 5 日と 7 日、東京都内 97 警察署の安全教育担当者を対象にした交通安全教育レベルアップ研修が開催された。この研修は各警察署で管内の学校、企業等の安全教育を担当している係員に対して、常に新しい情報や教育手法を提供し、効果のある安全教育を実施させるためのものである。警視庁交通部交通総務課交通安全教育係 保谷健一さんは、「安全教育の対象者は子どもから高齢者、また歩行者、自転車利用者、職業ドライバーと多岐にわたるため、各警察署が必要としているもの、また推進すべきものを交通部で選別し、教育効果が上がるよう、専門家による実践的な技能指導等を通じて指導力強化をめざしています」と研修の意義を話す。

そして、保谷さんは今回の研修に安全運転支援システムの体験を通じて理解を深めてもらう内容を組み込もうと、Honda 安全運転普及本部に協力を要請した。「このような内容を取り入れた背景は 2 点あります。1 点目は、高齢者の事故防止対策です。加齢に伴う身体機能の低下を先進技術でカバーし、交通事故の被害者と加害者を減らすため、まずは私たち指導者が安全運転支援システムの優れた点を理解し、機能について普及啓発を行うことです。2 点目は、『自動ブレーキ』と聞いただけでは『魔法のブレーキ』のような印象を受ける中、それを過信して事故を起こしてしまわないかを懸念したものです。私たちがシステムを正しく理解し、ドライバーがとるべき行動を様々な場で伝えたいと考えています」。

研修会場となった警視庁交通安全教育センター（東京都世田谷区）には「Honda SENSING」を搭載したクルマが用意された。運転は Honda のスタッフや交通教育センターインボーク埼玉のインストラクターが担当し、参加者は助手席や後部座席に同乗して、衝突軽減ブレーキ（CMBS）、誤発進抑制機能、先行車発進お知らせ機能、標識認識機能の 4 つを体験した。

Honda SENSING

安心・快適機能を搭載した先進的安全運転支援システム

① 衝突軽減ブレーキ (CMBS: Collision Mitigation Brake System)

前方、クルマや歩いている人とぶつかりそうになった時、ディスプレイ表示や音で警告。緊急時には自動で強いブレーキをかけて、ぶつからないようにサポートする。

② 誤発進抑制機能

前の方に障害物があるにもかかわらず、うっかりアクセルを強く踏み込んでしまった時、急加速を抑える。

③ 後方誤発進抑制機能

後ろの方に障害物があるにもかかわらず、うっかりアクセルを強く踏み込んでしまった時、急加速を抑える。

④ 歩行者事故低減ステアリング

車線を外れて、歩いている人と衝突しそうなお時、ディスプレイ表示と音で警告。ステアリングも制御して回避するようにサポートする。

⑤ 路外逸脱抑制機能

車線を外れてしまいそうなお時、警告だけでなく、クルマを車線内へ戻すようにステアリング操作をサポートする。

⑥ ACC (アダプティブ・クルーズ・コントロール: Adaptive Cruise Control)

高速道路などでアクセルを踏まなくても、前を走るクルマと適切な距離を保ってついていくようサポートする。

⑦ LKAS (車線維持支援システム: Lane Keep Assist System)

高速道路などで、クルマが車線の中央付近に沿って走れるようにステアリング操作をアシスト。ロングドライブでのドライバーの負担を減らす。

⑧ オートハイビーム

対向車や前を走るクルマを検知して、ハイビームとロービームを自動で切り替える。

⑨ 先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどの停車時に、前のクルマが発進したことをディスプレイ表示と音で知らせる。

⑩ 標識認識機能

道路標識を認識してディスプレイに表示。標識の見落とし防止を図り、安全運転をサポートする。

⑪ トラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能)

高速道路での低速走行の時、前走車の車速変化に合わせて車間距離を保ち、車速・車線の中央付近を維持するよう、ステアリング操作を支援することでドライバーの運転負担を軽減する。

※車種により搭載機能が異なる。

各機能の詳細は以下のホームページを参照。

<http://www.honda.co.jp/hondasensing/>

Contents

- P1 Close Up 安全技術
- P2 Safety Info. インフォメーション①
- P3 Safety Report セーフティポ 高齢者
Safety Info. インフォメーション②
- P4 Safety Report セーフティポ 子ども
Close Up クローズアップ 福祉安全運転
- P5 Close Up クローズアップ 四輪販売会社
- P6 SJ Interview 岐阜県垂井町立垂井小学校校長 後藤喜朗さん
- P7 TRAFFIC SCOPE 交通参加者の行動を観察
- P8 危険予測トレーニング (KYT)
SJ クイズ



Safety for Everyone

Honda はすべての人の
交通安全を願い活動しています。

SJ ホームページは

編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒107-8556 東京都港区南青山 2-1-1
TEL：03(5412)1736
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>
編集人：中嶋英彦

※ご不明な点がございましたら、下記までお問合わせください。
(株)アストクリエイティブ安全運転普及本部係
TEL：03(5439)1191
E-mail：sj-mail@spirit.honda.co.jp

技術への誤解や過信を
取り除くことが大切

体験が終わると、「Honda SENSING」に関する座学となる。講師を務めるのは本田技研工業（株）日本本部商品ブランド部商品企画課主幹 吉田秀彦さん。吉田さんは四輪販売会社（Honda Cars）のスタッフに「Honda SENSING」を正しく理解してもらうための啓発活動を担当している。

まず、「Honda SENSING」は実際の交通事故データを徹

底的に分析し、独自の基準で事故の回避支援と被害軽減の実現をめざすのだと説明。そして、技術の進化も重要だが、機能に対する誤解や過信を取り除いていくことも大切であると強調した。「例えば、私たちは自動ブレーキではなく、『衝突軽減ブレーキ』と表現しています。衝突時の被害を軽くするためのもので、衝突前にクルマを完全に止められると断言できるものではないからです」と吉田さんはいう。そして、常にミリ波レーダーと単眼カメラで前方の状況を確認し、ドライバーをサポートする「Honda SENSING」の仕組みと作動原理を解説。「レーダーもカメラも本来の性能以上のことはできません。天候状況などでカメラが対象物を見つけれないこともありますし、レーダーが反応しない道路状況や対象物も存在します。そこで、私たちはお客様に『条件がそろえば、自動で作動しますが、自動で作動することと衝突しないことは同じではありません』と説明しています。機能には限界があるということを理解していただきたいと思います」。その後、「Honda SENSING」に関する質疑応答があり、その1つ1つに吉田さんが回答を行った。最後に受講者はグループに分かれて、「先進技術の有効性と安全教育について」というテーマでディスカッションし、研修は終了した。

研修には合計100人以上が参加。警視庁の保谷さんは「受講した全員が『Honda SENSING』を体験できたので、たいへん有意義な研修になりました。安全運転支援システムの機能の限界についても、わかりやすく解説していただき、ありがたく思っています」と感想を語った。Hondaはお客様に正しく理解していただくために、また体験試乗会を安全に運営するために、四輪販売会社(Honda Cars)のスタッフに対し、交通教育センターにて「Honda SENSING」の研修を実施している。今後、全国のHonda Carsを通じて、先進の安全運転支援システムに対する正しい理解の普及を強化していく考えだ。



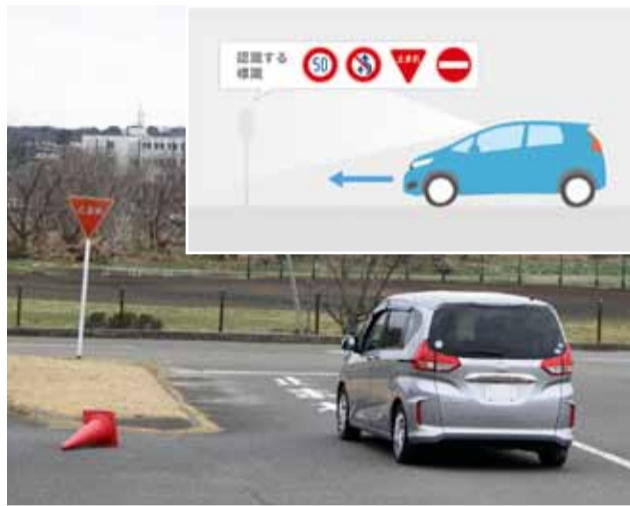
「Honda SENSING」の体験はHondaのスタッフやインストラクターの運転のもとで行われた



専用のダミーターゲットを使った「衝突軽減ブレーキ (CMBS)」と「誤発進抑制機能」の体験



前車が発進したことをディスプレイ表示と音で知らせる「先行車発進お知らせ機能」の体験



道路標識をディスプレイに表示する「標識認識機能」の体験



坂道など道路状況によりレーダーやカメラが前車を正しく検知できないケースも体験してもらう



体験後の座学では、本田技研工業(株)吉田秀彦さんが「Honda SENSING」の仕組みと作動原理を解説

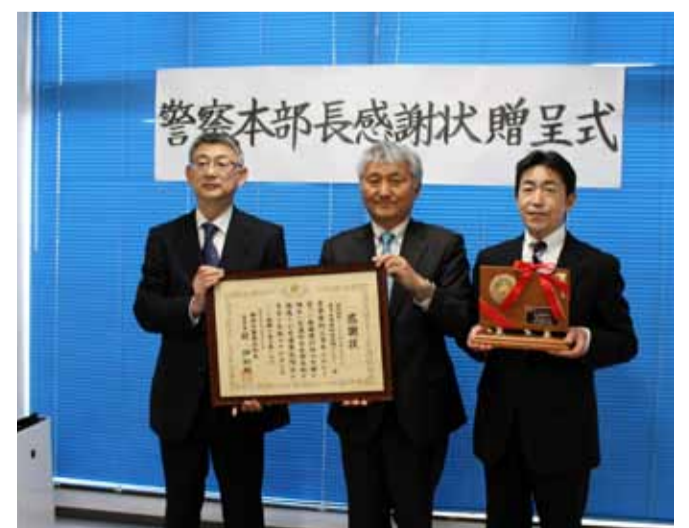
Safety Info.

インフォメーション①

交通教育センターレインボー浜名湖に 静岡県警察本部が感謝状を贈呈

交通教育センターレインボー浜名湖は2002年の開所以来、静岡県警察白バイ隊の訓練にコースを利用してもらい、同センターのインストラクターが新規隊員の養成訓練、現役隊員へのフォロー研修に協力している。こうした白バイ隊員の公務中の交通事故防止をはじめ幅広い交通安全活動に対して静岡県警察本部は高く評価し、2月

13日、同センターに感謝状を贈呈した。小林朋幸・同センター所長は「私たちが実践している『人から人への手渡し交通安全活動』を評価していただき、職員一同うれしく思っています。今後も警察行政に積極的に協力し、地域の交通教育センターとしての役割を果たしてまいります」と語った。



写真左から、武村和典・静岡県警察本部交通部長、佐竹正規・(株)レインボーモーターズ代表取締役社長、小林朋幸・交通教育センターレインボー浜名湖所長